

講義ユニット名	衛生学	所属科目名	社会医学
講義ユニット 責任者	たなか じゅんこ 田中 純子	所属	疫学・疾病制御学 (内線 5160 )
		メール	jun-tanaka@hiroshima-u.ac.jp
講義ユニット コーディネーター	たなか じゅんこ 田中 純子	所属	疫学・疾病制御学 (内線 5160 )
		メール	jun-tanaka@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義および演習。 実習(木・金曜日)については、クラスの学生を二分し、衛生学と公衆衛生学が分担して行う。 講義終了後、筆記試験。演習レポートは適宜提出。実習終了後、発表会。実習報告書の提出。		
概要	<p>【講義および演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保健統計・健康水準・医学研究デザイン等を習得する。</li> <li>○疫学の基本を理解し、その疫学方法論を習得する。</li> <li>○感染症発生時の疫学的対処を実例に基づいて提示し、応用力を培う。</li> <li>○血液事業および輸血用血液の安全性確保のためのスクリーニングを理解する。</li> <li>○種々の慢性疾患の病態の把握や制御方法に関する知識を習得する。</li> <li>○国内外の疫学研究、臨床研究について学ぶ。</li> <li>○医学統計学を学ぶ。○臨床試験について学ぶ</li> </ul> <p>【実習】木・金曜日。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ毎にテーマ(目的・方法・期待される成果)を設定する。</li> <li>○実習発表会を公開で行う。</li> <li>○実習報告書を作成する。</li> </ul>		
講義ユニットの 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)健康、障害と疾病の概念を説明できる。</li> <li>2)社会構造(家族、コミュニティ、地域社会、国際化)と健康・疾病との関係を概説できる。</li> <li>3)環境と健康・疾病との関係(環境と適応、主体環境系、病因と保健行動、環境基準と環境影響評価、公害と環境保全)を概説できる。</li> <li>4)生態系の変化が健康と生活に与える影響(有害物質、環境発がん物質、内分泌攪乱物質)を概説できる。</li> <li>5)地球環境の変化、生態循環、生物濃縮と健康との関係を説明できる。</li> <li>6)人口静態統計と人口動態統計を説明できる。</li> <li>7)疾病の定義、分類と国際疾病分類(ICD)を説明できる。</li> <li>8)疾病・有病・障害統計、年齢調整率と標準化死亡比(SMR)を説明できる。</li> <li>9)疫学の概念と疫学の諸指標について説明できる。</li> <li>10)予防医学(一、二、三次予防)を概説できる。</li> <li>11)生命関数表(平均余命と平均寿命)を説明できる。</li> <li>12)健康管理、健康診断とその事後指導を説明できる。</li> <li>13)産業保健(労働関係法規を含む)を概説できる。</li> <li>14)感染症法・食品衛生法の概要と届出義務を説明できる。</li> <li>15)予防接種の意義と現状を説明できる。</li> <li>16)副作用報告と有害事象報告の意義を説明できる。</li> <li>17)臨床研究、臨床試験、治験と市販後臨床試験の違いを概説できる。</li> <li>18)研究目的での診療行為に要求される倫理性を説明できる。</li> <li>19)研究デザイン(二重盲検法、ランダム化比較試験、非ランダム化比較試験、観察研究、症例対照研究、コホート研究、メタ研究&lt;メタアナリシス&gt;)を概説できる。</li> </ol>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	講義については3分の2以上の出席を試験の受験要件とする。実習については全ての出席を試験の受験要件とする。		
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)		

<p>評価法</p>	<p>MCQ形式と記述形式の併用で試験を行う（配点：MCQ 50点、記述 50点）。  本試験における合格基準は60点とする。  衛生学の成績評価は、下記について総合的に判定する。  ○講義及び実習の出席状況。  ○筆記試験の成績。  ○演習レポート提出状況。  ○実習発表の内容、実習報告書の提出。  【重要事項】  1. 「社会医学」の単位取得には、衛生学・公衆衛生学・法医学のすべての科目を取得することが必要です。  2. したがって、「社会医学」の単位が取得できず留年となった場合、翌年度には衛生学・公衆衛生学・法医学のすべての科目を再度取得することが必要です。  3. 科目ごとに設定された取得条件（「出席」「試験」「実習」に関する条件）に十分に留意して履修すること。</p>
<p>履修上の注意 アドバイス</p>	<p>医学研究、臨床研究を行う際に必要な疫学基礎・実践・方法論の講義、演習を通じ、疾病制御をめざした研究の実施方法や思考過程を学ぶこと。  講義・実習の内容および順序は、変更する場合がありますので留意すること。  変更の都度、「もみじ」による連絡と、学年代表を通じた連絡をする。  講義の内容や演習の内容に関する質問は、いつでも受け付けます。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>参考書などは授業の際に提示する。</p>